

秋工ラグビー部創部一〇〇周年に寄せて



校長

佐藤 貴文

ラグビー後援会の皆様におかれましては日頃より本校ラグビー部に対し、ご理解ご協力を賜りまして心より感謝申し上げます。

昨年度、本校ラグビー部は全国高等学校ラグビーフットボール大会に出場し、見事二回戦へと駒を進めました。中でも一回戦の高川学園高等学校との対戦は、今でも鮮明に記憶に残っています。

この試合、前半は風上という有利な条件を活かし、積極的な攻撃を展開。27対18というスコアで折り返し、良い流れをつかんだように見えました。しかし後半は一転、風下となり、相手の反撃をじりじりと受ける展開に。ついには追いつかれ、逆転を許すという苦しい場面を迎えました。スタンドや画面越しで見守る誰もが、敗北の二文字を頭に浮かべた瞬間だったかもしれない。

それでも、選手たちは最後まで諦めませんでした。残された時間の中で、

これまで積み重ねてきた努力と意地、そして秋工ラグビー部としての誇りを胸に、見事な再逆転を果たし、勝利をつかみ取りました。あの瞬間、私はまさに「秋工のプライド」を見た思いがしました。どんな状況でもひたむきに挑み続けるその姿勢は、多くの人々に感動と勇気を与えてくれたことでしょう。

そして、今年度。本校ラグビー部は創部一〇〇周年という大きな節目を迎えました。この長い歴史の中で、本校からは多くの優秀な選手が輩出され、ラグビー界のみならず、各界で活躍されているOBの方々が数多くいらっしゃいます。その功績の積み重ねこそが、秋工ラグビー部の伝統と誇りを形作ってきました。

近年、少子化や中学生の県外流出といった社会的な課題に直面しておりますが、それらの現実にも前向きに向き合い、より良い形で対応していきたいと考えております。こうした課題にも負けず、伝統を受け継ぎながら、未来を見据えた新たな歩みを進めていくことが今求められているのではないのでしょうか。

今年度の指導体制は、小林正人部長、

近藤健悦副部长、澤木賢一監督、池田雅之コーチをはじめ、数多くのOBの皆さまのご協力のもと、充実したものとなっております。ポジションごとの専門的な指導が日々行われ、選手たちは着実に成長を重ねています。

その成果は、中央支部総体、全県総大会での優勝という形で現れています。試合を重ねるごとに、個々の選手の技術は一段と磨かれ、チームとしての一体感と結束力が深まっていることを強く実感しています。

この勢いをそのままに、私たちは今年も「花園」に挑みます。創部一〇〇年の節目にふさわしい、堂々たる戦いを期待するとともに、選手一人ひとりが誇りと自信を持ってピッチに立つことを願ってやみません。

後援会の皆様におかれましても、引き続き、秋田工業高校ラグビー部の熱い戦いを応援いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

